

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 25 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		ことぶき大学事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	高木 敏明	
	施策	16	高齢者・障害者の自立促進と社会参加			所属課	生涯学習課	担当者名	合志 新一	
	基本事業	47	高齢者の社会参加促進			所属班	生涯学習班	(内線)	2421	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠		成果優先度評価結果	
		1	10	5	1	10445			8	
									コスト削減優先度評価結果	6
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 S43 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	向学意欲のある高齢者に元気に学習していただくことで、生涯現役での社会参加を促進する「ことぶき大学」は昭和43年、高齢者の教養向上と社会参加を目指して開設された人口の高齢化が進行していて、年々対象者は増加しているが、高齢者増加率よりことぶき大学受講生数増加率のほうが少ない。この背景には、生き方の多様化があげられ、ことぶき大学以外の場所で高齢者が社会参加できる場所が増えているからと思われる。
【業務の流れ】	5月から翌年3月までの月1回合計10回の月替わりの講座を御代志市民センター講堂で開催し、様々なテーマで高齢者に応じた生涯学習講座を実施する。講座への出席率が高い受講生には年度末に精勤賞を贈っている。また、受講生からの投稿や実施講座記録をまとめ、年度末に記念誌を作成し、受講生に配付している。遠方からの参加者には市バスを提供している。
【主な予算費目】	報償費(講師謝金)、需用費(記念誌作成代)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 半段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
市長講話、男女共同参画講演会、社会を明るくする運動講演会、生涯学習講演会、地デジ説明会、交通安全教室、健康講座、郷土史講座、認知症講座、健康講演会、研修旅行(宮崎県)	男女共同参画講演会、社会を明るくする運動講演会、コミュニケーション講座、コンサート、金融講演会、国際交流講座、健康講座、研修旅行、他3講座
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ ア 講座実施回数	回 イ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
旧西合志地域の60歳以上の市民	⇒ ア 旧西合志地域の60歳以上の市民 人
⇒ イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
ことぶき大学の受講生が増える	⇒ ア ことぶき大学の受講生(参加延べ人数) 人
⇒ イ	

*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠

受講生が増加することにより、社会参加している高齢者が増加することにつながり、高齢者の自立促進につながるから

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	19年度	20年度	21年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
			実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	
④ 活動指標	ア	回	11	11	11	11	11	11		
	イ									
⑤ 対象指標	ア	人	7,410	7,739	7,600	8072	8,300	8,400		
	イ									
⑥ 成果指標	ア	人	1,795	1,934	2,100	1721	1,730	1,730		
	イ									
投 入 量	事業 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	180	103	130	65	130	130	
		(A) 事業費計	千円	180	103	130	65	130	130	0
		(A)のうち指定経費	千円							
		(A)のうち時間外、特勤	千円							
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	280	280	280	280	280	280	
		(B)人件費計	千円	1,112	1,120	1,114	1,114	1,114	1,114	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,292	1,223	1,244	1,179	1,244	1,244	0	

総トータルコスト	
全体計画	
～	年度
(期間限定複数年度のみ記載)	
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)
0
0
0

合志市

事務事業名	ことぶき大学事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	----------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)
*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した	☒ 達成しなかった ⇒【理由】	参加者が固定していて高齢を迎えているから、今後は、新規加入者を増やす必要がある。
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついていないか？	☐ 目標達成見込みあり ⇒【理由】	☒ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】	高齢者の市内総数は増加傾向にあるが、趣味の多様化により目標の人数を達成するのは厳しい。これから、高齢者のニーズを更に詳しく調べるために、受講生一人ひとりにアンケート調査を実施する必要がある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】	☐ 向上余地がない ⇒【理由】	講座参加者が固定化している
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	☐ 他に手段がない ⇒【理由】	旧合志地域の高齢者を対象とした「高齢者教養講座」が行われていて、これとの統合が可能である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】	現在、この事業にかかる費用は、講師謝金の記念誌作成代で、これ以上の削減は難しい
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】	☐ 削減余地がない ⇒【理由】	旧合志地区の「高齢者教養講座」と合併すると人件費の削減ができる。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】	☐ 公平・公正である ⇒【理由】	講師謝金などは、受講生の会費でまかなうのが受益者負担にかなうものと思われる。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】	ことぶき大学は、60歳以上の市民を対象としていて、それらの方に、講師との交渉、講座の中身づくり、受講生への通知等全てを負担させるのは難しいので、講座の司会進行や出席者受付などを受講生に役割分担している。

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

旧合志地区で「高齢者教養講座」を開催していて、これと合併することにより人件費や事業費の削減ができるが、受講者の範囲が合志市全域と広がるため交通手段を考慮する必要がある。また、受益者負担の観点から、受講者には一定の費用を負担してもらう必要がある。
--

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☒ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善(有効性改善)

☐ 事業のやり方改善(効率性改善)

☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持	○		
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策